

多職種研修会（医療・介護連携推進事業）等

～医療・介護関係者の研修～

【概要】

平成18年度から、地域包括ケアシステムの構築に向けた取組の一つである「医療・介護連携推進事業」として、多職種による研修会や介護支援専門員に対する研修等を実施しています。

多職種研修会として、医療関係者や介護関係者、関係機関の者等が、医療や介護の連携強化に資するグループワークを行い、いわゆる「顔の見える」関係づくりや他職種の見識に対する理解の向上、多職種が同一の課題に対し共通の過程で解決する方法の体得を図っています。

市医師会とさがみはら介護支援専門員の会、本市が協力して多職種研修会を開催しています。多職種研修会の企画に当たっては、市医師会や市歯科医師会、さがみはら介護支援専門員の会、本市の者で構成する会議における意見を参考にしています。

【平成30年度実施状況】

テーマ：「“その情報”の持つ意味は？」～職種による違いを知って連携に活かそう！～

参加職種：医師、歯科医師、薬剤師、訪問看護師、介護支援専門員、高齢者支援センター職員及び本市職員

参加者数：278名（3区合計）（内訳：緑区67名、中央区112名、南区99名）

【その他の研修】

喀痰吸引等研修

目的：不特定多数の利用者に痰の吸引等を行うことができる介護職員を確保し、喀痰吸引等医療的行為を要する者の介護保険施設又は住み慣れた地域における生活の継続を促進するため

対象：市内に所在する介護保険施設や居宅サービス事業所等に勤務する介護職員

受講者数：52名（平成30年度）

認知症多職種協働研修（ライフサポート研修）

目的：認知症の人を支えるため、認知症の早期の段階から、医療・介護等の専門職が、同じ方向性を共有し一体的な継続的支援を提供していけるように、有機的な連携や顔の見える関係づくりなどを推進するため

対象：医師、看護師（訪問看護師含む）、居宅サービス事業所や高齢者支援センター、薬局等に勤務する専門職

参加者数：30名（平成30年度）